

令和2・3年度 神奈川県立学校 第三者評価実施報告書

評価実施校		横須賀高等学校 定時制	
カテゴリ一名	学び直しの学習を重視した教育に取り組む学校		
		課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞	課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜実施校＞
課題1	<p>アセスメントに基づいた学習指導の個別最適化と教材の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業まで、個々の生徒の希望する学習の到達目標を設定し、進路実現に向けた授業を計画的に実施することが重要である。 ・生徒毎に入学時から学習の進捗状況、進路希望等を合わせた各生徒の成長の記録シートを作成し、適時生徒の状況を記入するシステムの検討。 ・授業の進め方を見直し、対話的な学習（協働的な学習）の時間と個別指導の時間を1時間の中に組みこむことの検討。 	<p>新年度に各教員が授業時間内に生徒をよく観察し、アセスメントに基づいた個別最適化の授業が実践されている。習熟度別クラス編成により、授業は丁寧に、かつきめ細やかに行われている。実技を伴う教科では、生徒が積極的に協働する場面が見られた。生徒へのヒアリングでは、「習熟度別クラスで苦手なところをじっくり学べる環境が良い」、「教員は質問したことを掘り下げて理解するまで説明してくれる」との回答を得た。</p> <p>こうした授業改善の取組は、生徒による授業評価に数値として顕著に表れている。生徒による授業評価では、多くの項目で昨年度よりも5ポイント以上高い結果が得られている。今後の課題としては、①毎時の授業における生徒の理解度や達成感は認められるので、その状態を維持し、学力の定着を図ること、②これから取組を始めようとしている教材の共有化を確実に実施することの2点である。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>1学年の入学当初に実施しているモジュール授業において、生徒それぞれの学力を把握することができた。数学における習熟度別クラスによる授業等を通して、生徒の理解力の向上につながることができた。それぞれの生徒の学力を把握することにより、積極的に生徒が授業に参加することができる状況を作り上げることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>積極的に授業に参加している生徒が多いが、学力の定着に確実に繋がっているとは言えない。授業中には理解しているが、次の授業では忘れてしまっている生徒が多い。家庭での学習習慣がついていないことが原因の一つである。家庭で自ら学習に取り組む姿勢を身に付けていく必要がある。ICTを活用した授業が多くなり、授業方法も多種多様になってきている。教職員間で教材の共有化をより進めていくことが大切である。</p>
R3指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の習熟度に応じた課題学習を授業全体の10%以上取り入れることができたか。 ・授業改善の研修会を年間3回以上行うことができたか。また、生徒による授業評価において令和2年度と同等かまたは、それ以上の結果となったか。 ・Chromebookを授業全体の20%の場面で活用することができたか。 ・通常の授業内で生徒の理解度に応じて、自ら学ぶことができる学習課題を取り入れることができたか。また、生徒自ら学ぶことができる授業方法の研究を行い、職員間で共有できたか。 	<p>個に対応した生徒支援および生徒指導を実施するに際して、養護教諭やSC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）と連携しながら進めている。とりわけ学校が立ち入ることの難しい家庭の有する課題には、SSWの支援を得ながらきめ細やかに対応している。</p> <p>生徒の自尊感情や自己肯定感を高めるような取組については、生徒へのヒアリングや授業の様子から、確実に成果が出ていると判断できる。授業の様子からは他者を尊重する態度が見て取れた。生徒へのヒアリングでは、「深く学べるのが良い」、「やればできると実感した」、「入学当初は不安感が大きかったが自信を持てるようになり、家族からも別人になったと言われた」等、本校での教育を経験したことが生徒の人生に好影響をもたらしている。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>生徒が抱えている様々な問題にSC、SSWと協力し取り組むことができていた。それぞれの生徒の状況を把握し、教職員間で情報の共有化を行い、生徒に適した指導に努めている。</p> <p>生徒の状況を確実に把握した授業を行うことにより、理解度及び生徒の充実感の向上につながることができた。各教科において、理解した内容が増えることにより、色々なことに興味を持ち、授業に取り組むことができていた。生徒の自己肯定感につながっていると思われる。</p> <p>＜課題＞</p> <p>生徒の抱えている問題は、多岐にわたっているため、教職員が対応するためには生徒支援についての様々な知識の習得が必要となってきている。それぞれの教職員で情報をさらに共有し取り組んでいくことが大切である。</p>
R3指標	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の支援機関と連携し、生徒の個々の課題に対して有効な支援ができたか。 ・社会人としての資質を高め、個々の生徒が安心して学校生活を送れる教育環境を整えることができたか。生徒の自己肯定感を高めることができたか。 ・生徒それぞれの記録を共有化するシステムを構築し、教員間で情報を共有することができたか。 	<p>キャリア教育を通じた自立に向けた指導・支援について、高校卒業後に就職する生徒が多い中、そのための準備の機会を一層充実化する必要がある。コロナ禍の中、職場訪問やインターシップの活動機会の大幅縮減が余儀なくされるものの、1年生のうちから、社会人講話の機会、職業についての情報を得る機会等を増やす取組が求められる。生徒へのヒアリングでは、「社会人講話は直接仕事についての話を聴くことができるのが良いので、もっと多様な社会人の話を聴いてみたい」という要望が出された。生徒の一生涯を見据えて、より多くの社会人と触れ合う機会を設定し、職業についての情報だけではなく、多様な人生観、職業観や勤労観を学ぶことのできる機会を提供することが必要である。（例えば、横須賀商工会議所が実施している学校でのキャリア教育支援の取組を援用することも視野にいれてみてはどうかか。）</p> <p>また、指導方法についても、対面指導を軸にしつつもオンラインや動画配信による支援の工夫も検討されてはどうか。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>コロナ禍のため、昨年度は外部の講師や卒業生を招いた取組が実施できなかったが、今年度は、感染症対策を確実にしながら、開催することができた。卒業生や社会人の方からの話は、それぞれの生徒の刺激になり、将来を考えるきっかけとすることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>コロナ禍のため、地域と交流する取組が実施できなかった。例年行っている事業は、今年度は実施できているが、新たな取組を計画することができなかった。今後は、地域との連携を進め、様々なキャリア教育支援の取組を検討していくことが必要である。</p>
課題3	<p>キャリア教育を通じた自立に向けた指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が上記の課題（1と2）に極力専念できる形態で、こうした機会の設定を実現化するため地域等との協働体制を構築したうえで、キャリア教育を進めて行く必要がある。 ・生徒に自信を持たせるための「仕掛け（キャリア教育計画）」を取り入れる必要。 ・授業を通じた生徒に対する支援を学年別に設定し、個別の生徒への支援が組み合わされるように、キャリア教育の計画と教科の指導計画とを融合・構成し、支援を行うシステムの構築の検討。 	<p>キャリア教育を通じた自立に向けた指導・支援については、上記の通り、コロナ禍のなかで難しい局面があったものの、改善の余地のある課題であるので、今後の取組を工夫されたい。</p>	<p>＜成果＞</p> <p>コロナ禍のため、昨年度は外部の講師や卒業生を招いた取組が実施できなかったが、今年度は、感染症対策を確実にしながら、開催することができた。卒業生や社会人の方からの話は、それぞれの生徒の刺激になり、将来を考えるきっかけとすることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>コロナ禍のため、地域と交流する取組が実施できなかった。例年行っている事業は、今年度は実施できているが、新たな取組を計画することができなかった。今後は、地域との連携を進め、様々なキャリア教育支援の取組を検討していくことが必要である。</p>
R3指標	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現を支援し、進路未決定者を30%以下にすることができたか。 また、進路に対する意識を高めることができたか。 ・生徒の自己実現に向けて学習指導を行うとともに、社会人としての資質を身につけさせながら向上させることができたか。 ・キャリアパスポート等を利用し生徒の成長の記録を作成し、生徒の進路実現に生かすことができたか。 	<p>横須賀高校定時制では、個別最適化の授業への取組、個々の生徒の状況に即した生徒指導の実践に、きめ細やかに取り組んでいる。この成果は、生徒による授業評価に顕著に表れている。引き続き、生徒のスモールステップを重視するような着実な教育を実践されたい。また、一人ひとりの生徒と向き合うための時間とゆとりを、教職員が確保するための働き方改革に向けた取組においても、引き続き継続されたい。そのための教材の共有化については、今後の進捗に期待する。</p> <p>キャリア教育を通じた自立に向けた指導・支援については、上記の通り、コロナ禍のなかで難しい局面があったものの、改善の余地のある課題であるので、今後の取組を工夫されたい。</p>	<p>それぞれの生徒の状況にあった生徒指導・支援をさらに進めていきたい。そのために、教職員間の情報の共有化をさらに進め、教職員により生徒の対応に違いが表れないように取り組んでいく。学年等での情報管理を確実にに行い、それぞれの生徒についての情報を迅速に把握できる体制の構築に向けて取り組む。Chromebookを利用した授業をさらに拡充し、生徒の理解力の向上につながるために、職員研修を計画的に行い、それぞれの教職員のスキルアップを図る。教材の共有化を進めるために、定期的に教職員間での意見交換を行う場面を増やしていきたい。</p>
		<p>総括評価(これまでの訪問①～④を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価) ＜評価委員＞</p>	<p>総括評価を踏まえた次年度の学校運営に係る改善点および改善方法 ＜実施校＞</p>
		<p>横須賀高校定時制では、個別最適化の授業への取組、個々の生徒の状況に即した生徒指導の実践に、きめ細やかに取り組んでいる。この成果は、生徒による授業評価に顕著に表れている。引き続き、生徒のスモールステップを重視するような着実な教育を実践されたい。また、一人ひとりの生徒と向き合うための時間とゆとりを、教職員が確保するための働き方改革に向けた取組においても、引き続き継続されたい。そのための教材の共有化については、今後の進捗に期待する。</p> <p>キャリア教育を通じた自立に向けた指導・支援については、上記の通り、コロナ禍のなかで難しい局面があったものの、改善の余地のある課題であるので、今後の取組を工夫されたい。</p>	<p>それぞれの生徒の状況にあった生徒指導・支援をさらに進めていきたい。そのために、教職員間の情報の共有化をさらに進め、教職員により生徒の対応に違いが表れないように取り組んでいく。学年等での情報管理を確実にに行い、それぞれの生徒についての情報を迅速に把握できる体制の構築に向けて取り組む。Chromebookを利用した授業をさらに拡充し、生徒の理解力の向上につながるために、職員研修を計画的に行い、それぞれの教職員のスキルアップを図る。教材の共有化を進めるために、定期的に教職員間での意見交換を行う場面を増やしていきたい。</p>